

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2795000286		
法人名	株式会社 コミュニティハウス夢		
事業所名	グループホーム みんなの家・福ちゃん		
所在地	大阪府東大阪市六万寺町1丁目14-20		
自己評価作成日	令和6年6月1日	評価結果市町村受理日	令和6年10月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター
所在地	大阪府中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階
訪問調査日	令和6年9月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私たちの共通理念「人を人として尊び、共に学び、共に支え合う姿勢を持ち続けること」を掲げ共に生きる姿勢を大切にしています。利用者が地域とつながりながら暮らし続けていけるように事業所自体地域と日常的に交流を持つよう努めていきたい。みんなの家・福ちゃんでは共に支え合い、最後までその人らしさを失わないように過ごして頂きたいとの思いで、笑いの絶えない賑やかなグループホームを創って行きます。福ちゃんが大切にしている事、前から変わらず、①一日一回は大笑いする事②楽しみや喜びを共有するおおきな家族になる事③プログラムのない自然な暮らし④一人ひとりの思い、やりたいこと、個人の生活リズムを尊重すること。また、家庭的で安心して生活して頂くように職員同士、話し合いを重ねながら取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

みんなの家・福ちゃんとして設立して12年半弱、生駒山の麓の住宅の立ち並ぶ一角に当事業所と通所介護、有料老人ホーム(現在休止)を配している。近年に経営母体(代表者)の変更による人事異動があり、人心共に落ち着かない風景を見たが、今年5月就任の若い管理者、4月就任のベテランケアマネジャーを迎え、従来からの職員の応援があって、“福ちゃんの家”の目指す福ちゃんらしいサービスの強化に向けて努力している。年齢や介護経験の差をお互いに補完しながら、日常での気づきや対応困難な事柄を率直に出し合い、原因をよく探り、対策を練って実行している。更にその結果を検討し、ケアのレベルアップを目的とした集団(チーム)としてのPDCAの実行を経て利用者の安心した生活、家族の安心・信頼に繋がるであろうと信じて期待する。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当事業所理念「人を人として尊び、共に学び共に支え合う姿勢を持ち続けること」と「共生」の姿勢、思いを職員全体が共有できるよう全体会議等で確認している。また、より良い介護の実践につなげている。	創設当時からの理念の下、日々の気づきから現象と原因、対応と評価を話し合い、利用者と職員がお互いを大事に考え、喜びや楽しみを共にする大きな家族を目指して努力している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時には近所の方と挨拶や会話を交わしている。コロナ禍になってからは外部交流は自粛している。施設の催事も内部のみで行っていたが、徐々に家族参加を予定している。また、地域の催しやイベントも状況によって参加していきたい。	自治会に加入しているが、コロナ禍と経営母体(代表者)変更による管理者の交代などの人事異動が重なり、昨年度から地域との交流持続が難しい状況となっている。運営推進会議を好機として地域情報を入手するなど、地域とのつきあいを深めていきたいとしている。	諸般の事情による運営で利用者の地域との繋がりが希薄にならぬよう、自治会会長やボランティア団体などとの話し合いに期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方が見学や相談に来られた時は認知症への理解や接し方について助言している。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で、書面の開催の時もありましたが、会議では施設の取り組みサービス状況や課題の報告を行い、出席者からの意見を参考にサービス改善を行っている。	昨年度は3、4回目を書面会議としている。本年度第1回(7月)を、家族3名、地域包括支援センター職員、事業者側3名で実質開催し、入居者状況・事故・活動・面会・食事提供変更などの報告を主とした内容となっている。人事異動に伴う家族からの質問と回答については記録を確認し得ない。	家族や地域に運営状況をよく説明し、意見・要望・提案等をサービスに活かすために、改善点等を具体的に記録し配布することを望む。本来の構成メンバーとする自治会会長・婦人部代表・地域相談員(GSW)への出席要請、民生委員ほか地域の知見者によるメンバー拡充の検討に期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所連絡会には必ず出席している。また、事業所だけで判断に迷う時は市の高齢介護課に相談し、意見を聞きながら実践する等協力関係を築くよう取り組んでいる。	公的扶助者在籍での関係部署との連絡・連携は当然とし、その他業務上の協力関係も良好に保たれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年2回の内部研修を実施し、意識づけを行っている。利用者対応としては、閉塞感を感じられないように日中は玄関は施錠せず、センサーを設置し個々の方々の様子に気を配り、できるだけ一緒に外に出て気分転換していただくように努めている。	身体拘束適正化のための指針の下、既定の会議を行い、内容の閲覧で周知を図ると共に、日常での気づきを話し合い、研修(レポート付)により拘束についての理解を促進させてケアに当たっている。夜間のセンサーマット使用2名、他は人感センサーで日中の見守りとしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止等の研修を年2回実施し、個々の職員に身体拘束と虐待のチェックリストを配布し、日々のケアを振り返る機会を持ち、自分がされて嫌なことは利用者にも行わないという考え方を徹底している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見人制度について学ぶ機会があれば参加している。以前は当施設でも成年後見制度を活用されている方があったが、現在は家族支援のかたのみになっている。必要と思われる方が出てきた場合はまず職員間で情報を共有し、個々の必要性を関係者と相談し活用できるように支援する。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不明な点が残らないように契約時に重要事項説明書及び契約書の内容について利用者や家族等に十分に説明し、話し合いを行い、ご理解・納得していただいている。また、解約や改定の際にも利用者・家族等に不安や疑問が生じないように個々に十分な説明を行うように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・日々の生活の中で個々の利用者の思いを汲み取り対応できるように努めている。また、家族等に対しては面会来訪時等の機会に意見を伺ったり、所用の電話の際に意見を伺っている。加えて、玄関に意見箱を設置し直接に話にくいような苦情や要望も把握できる機会を設けている。その他、運営推進会議の機会に意見を伺い反映させている。	家族の訪問時や諸事の電話連絡時に、意見・要望を聞き取っている。人事異動などで途絶えていた事業所便りを写真付きで復活(8月より)、また運営推進会議の詳細で丁寧な議事録を送付することで意見・要望を聞き取り、サービス向上に努めたいとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全体会議では、率直な意見が交換できる雰囲気を作っている。個々の利用者に居宅担当を作り、最近の様子を報告し、ニーズや良いケアの方法について話し合い、検討・実践に結びつけている。	管理者・ケアマネジャー以下人事異動がある中で、全員参加での職員会議で意見を出し合い、やってみよう・実践・評価・次へと実績を積み上げるべく努力している。会議欠席者は事前に意見提出、休日の参加者には残業手当を支給している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	当施設は1ユニット9名のみであるが、日中は4人体制でゆとりを持って利用者に接することができるような環境を整えている。給与面では資格手当の他、能力に応じた算定を行い、働きやすい環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員に適した研修の機会を確保し、費用は会社が負担している。外部研修を受講した職員は伝達研修を行い、他の職員にも知識を広げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ前は、東大阪市主催の事業者部会やグループホーム協会の全国セミナー等を通じ、他事業所と交流し、ネットワーク作りや勉強会を行い、サービスの向上に取り組んでいたが、徐々に再開して行きたい。また、法人内の他事業所と勉強会を行う予定である。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	最初に施設見学をしていただき、事前相談や契約の段階で本人の思い、不安、要望等を伺ったうえで安心していただけるサービスを提供することで信頼関係を築けるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	プライバシーに配慮しながら、家族の思いに耳を傾け、できるだけ複数の家族とお話する機会をもち、本人の思いもくみ取りながら要望を反映し、不安を解消できるようにサービスを提供することで「より良い」関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他機関や介護支援専門員の方々からの事前情報を参考に、連絡・調整を図りながら、本人・家族等のニーズに合った対応を心がけている。また、初期のサービスにおいて本人が早く馴染、安心して過ごすことができるよう職員間で連携をとり、支援の工夫をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互いに支援する、されるの関係ではなく共に生きる姿勢を持ちながら、日々の暮らしを続けていけるような関係を築くように努めている。また、利用者間で話し合いながら自主的に家事をこなして下さる雰囲気もできている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何事も職員の判断だけでなく日常の些細な事も家族等に伝え、同じ思いを共有し絆を深め、共に支え合っている者同士としてより良い関係作りをしている。対応に困った時はご家族に相談し、できる範囲で協力を仰いでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までの生活や家族関係に配慮し、面会・外出・外泊等が気軽にできるように支援している。面会は通常、昼夜を問わず都合の良い時に来ていただいている。また施設行事は文章でお知らせし、希望があれば家族以外の友人にも参加していただいているが、コロナ渦中は、状況を見て面会の場所・時間制限を行い、施設行事は利用者のみで行なっていた。	現況では面会についての制限はなく、主に親族の訪問となっており、本人からの馴染みへの発信は無くなりつつある。近時に姉妹での墓参が実行され、友人からの電話があった。唯一、入居以前の畑仕事(借地)を付添人と一緒に続けている人が居る。入居者の多くは、同敷地内の通所施設からの関係で、利用者同士や職員とも顔馴染みがある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格や感情の変化を理解し生活の中でより良い関係を築いていけるように努めている。関わりを持つことが苦手な方やうまくコミュニケーションをとることができない方には職員が間入ることより孤立を防ぎ、利用者同士関わりを持てるように働きかけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	住み替えが必要になられた場合は、転居先と申し送りを行い、環境の変化による戸惑いを減らすように努めている。また、契約を終了された方にも継続して会報誌を送ったり、施設の催事等の通知をして参加された方もおられた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジ					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話・言葉・表情等を記録に残し、生活歴やアセスメントも参考にその方の思いや意向を把握できるよう努めている。直接本人に確認するのが困難は家族等に伺ったり職員間で検討している。	アセスメントからの情報でその人をより良く知り、接遇時やレクリエーションや行事への参加時に様子を観察し、一緒に過ごす時間を大事に、些事な喧嘩を疎かにせず聞き取るなどで意向や思いをくみ取り日々の暮らしを支援したいと努力している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人・家族や介護支援専門員等の関係者より可能な限り情報を行っている。また、日々の生活や会話の中からさりげなく聞き取り、情報の補足を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	把握した情報をもとに施設で生活を始められた後、ケアを行いながら一日の生活の流れの中で心身状況・残存能力等について、職員が観察を行い、月1回の全体会議の場等において職員間で情報を共有して現状把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	施設でのより良い生活の為に今行っている援助内容が適切かどうかを全体会議で検討し、より適した援助に変更している。また、家族には来訪時や電話で要望等意見を伺い、現状に即した介護計画を作成している。	介護計画目標を長期1年、短期6ヶ月とし、ケアカンファレンス記録・個別記録・モニタリング・其他記録を基に、医師・看護師の所見を参考に担当者会議で作成、見直しを行っている。来訪時での説明、電話での説明で家族の了解を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入所時には通常の個別記録以外に初期記録をつけ、申し送りや連絡ノートを活用し個々の情報を共有している。気づきや工夫等を個別記録に残し、職員の誰もが状態把握できるようにし、全体会議等で検討し実践や介護計画の見直しにいかしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の状況でその時々ニーズに合わせて対応している。看取りの際は最後の時間を共に過ごされ職員と一緒に看取っていただくことも可能である。しかしコロナ禍は外食や買い物の不特定な摂食は禁止していたが、状況を見て、徐々に再開して行きたい。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の秋祭りでは太鼓台が施設前に立ち寄って下さるので、利用者が住民や子供たちに茶菓子を配ったりして触れ合う機会もある。また、通常年は包括や老人センター主催の手芸教室や他事業所の催事にも参加し、地域資源を活用し心身の活性化に努めていたが、コロナ禍で自粛していたが、様子を見て徐々に再開して行きたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設には24時間医療連携の強力医院があり、病気の早期発見に努め、必要に応じて担当医からの紹介状で専門病院を受診できるよう支援している。また、通院困難には訪問歯科や眼科の往診も利用していただいている。但しかかりつけ医の選択は自由であり、入所前からの病院に通院されることも可能である。	協力医療機関から内科月2回(全員)・歯科が口腔衛生士同行のもとに月2回(希望)・眼科月1回(希望)の訪問診療が有る。その他今までのかかりつけ医(整形外科医)の外部受診には家族が同行して受診している。看護師は非常勤職員として2名(各週1回・2時間)、訪問看護師の訪問もあり爪切りや緊急時対応等行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設の看護師が週2回体調管理を行い、職員からの日々の状態報告や相談を受け、処置や指示を行っている。また、急ぎの相談や指示が必要な時は訪問看護ステーションに連絡し、指示を受け、場合によって診察や処置がうけられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は情報提供を行い、入院中も頻回に訪問し医師や看護師等と情報交換や相談に努めている。退院時は現在の状況と施設での今後のケアにおける注意点等を確認し、協力医院とも情報を共有しスムーズに元の生活に戻れるように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化対応・終末期ケア対応指針」に基づき、入所契約時に説明し、希望される方には、署名、押印をいただいている。終末期を迎えた段階で家族等と医師や看護師を含め看取りケア会議を行い、ケアの範囲を確認し、職員間で共有しチームケアを行っている。	契約時に「重度化・終末期ケア対応指針」をもとに事業所としての考え方（出来る事・出来ない事）の説明を行い同意を得ている。身体の変化により終末期に入ったとの医師の判断にもとづき再度家族と、話し合いを行い意思統一を図っている。4年間、看取りは行われていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に研修や訓練を行い、いざという時に慌てないように実践力を身につけるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	①消防署指導・火災発生時の対応・通報の方法・避難訓練の実施（夜間に関しては会議の場で災害を想定して検討）②防災設備会社・消火訓練・設備点検、③防災グッズや非常食は2階に常備している。	法定の年に2回の災害訓練は5月に日中想定のもとに訓練が行われ（消火器や連絡網の確認）、その他防火設備会社の点検もあった。「8月の地震注意報」時には職員が資料を持ち寄って独自の防火対策を話し合い確認を行っている。備蓄は水・食料が7日分その他コンロ・土鍋等が備えられている。	事業所独自のBCP策定（事業継続計画）を確認しハザードマップにもとづき備蓄・備品の過不足の確認、災害時の避難場所の再確認を行い、利用者の見守り等を自治会に依頼することを望む。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	援助が必要な時も本人の気持ちを尊重し、さりげなく介護するように心がけている。そのため全体会議では個々の事例を検討し、誇りやプライバシーを尊重した対応を具体的に確認している。	年間研修計画の基に接遇研修が行なわれている。言葉遣いは”です・ます”口調、利用者の呼びかけ方は”さん”呼びを基本としているが時に(不穏時)”ちゃん”呼びの人もある。トイレの扉・カーテンの活用等羞恥心にも気遣いがある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中で本人の思いや希望が表出できるような声かけや働きかけを行い、表情や素振り等で思いを感じ取れるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	プログラムは特に作らず、個々の利用者の気持ちや希望を把握し、できる限り一人ひとりのペースで一日を過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で選んだ洋服を着て頂き、自己決定が困難な場合は職員がピックアップした中から選んで頂くよう支援している。ヘアカットは本人の要望にそうように美容師がたずねて施術している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	節句や祝日等等には手造りの箱弁を用意したり、誕生日には本人の好物メニューを加えている。お好み焼きや巻きずし等は皆で作ったり、調理や盛り付け・後片付け日常的に手伝って頂いている。コロナ前は、職員も介助の傍ら同席で食事していたが、現在は交代制をとっている。	食材業者から冷蔵・冷凍状態で配達されたものを温めて提供している。季節のイベント時には、ちらし寿司・ソーメン・お好み焼き・おせち・年越しそば等を買物から行い、おやつレクレーションではホットプレートでどら焼きを利用者に手伝ってもらい楽しんでいる。握り寿司の出前注文もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスを考えた料理を提供し、個々の食事量を把握している。必要に応じて食事形態を工夫し刻み・ブレンダー・トロミ食等で提供、水分はこまめに摂取していただくようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の能力に応じて、声かけ・誘導を行い口腔ケアを支援しているが、困難な方には職員が毎食後介助するようにしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を原則として、個々の排泄パターンを把握し、声かけ・誘導を行い、ADLに応じて見守りや介助を行っている。タイミングが合わない事もあるが、日中は利用者の8名中7名はトイレで排泄出来ている。	利用者の殆どがトイレ誘導による排泄支援により、リハビリパンツにパットを併用して日中を過ごしている。夜間は2時間ごとの見廻りを行いポータブルトイレ1名(自立)の他、おむつにパットの交換により安眠対策が取られている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食の献立には毎朝ヨーグルトや果物を提供している。食事はバランスの良い献立を提供している。便秘症の方には朝に冷たい牛乳を飲んで頂いたり水分摂取を強化している。加えて運動や腹部マッサージを実施し、薬だけに頼らない工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴が好きな方には定期入浴日以外でもできるだけ希望に合わせて入浴やシャワーをしていただけるように努めている。希望により個々に好みのシャンプーやコンディショナーを使用して頂くことも出来る。	入浴は基本週2回、午前・午後にかけて1日5名が入浴している。浴槽は2方向介助型で、お湯はかけ流し方式である。浴槽を跨げない人(4名)には、移動式リフト浴の設置がある。畑仕事が趣味の利用者があり、日によってはシャワー浴や1日2回の入浴希望にも対応している。季節によりゆずやしょうぶ湯で楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は個々の居室やリビングのソファやリクライニングチェアで自由に過ごしていただいている。夜間は定期的に訪室して室温や寝具の状態、入眠状況の確認を行い、安心して気持ちよく眠られるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は薬剤師の管理指導のもと服薬内容を把握し、症状の変化を確認し、医師に報告・相談等を行い各々に適切な服薬支援を行っている。特に便秘薬は排便状況を把握し、医師の指導のもと調整している。また、薬は本人の名前と服薬時間を確認しながら服用していただくことで誤薬を防止できるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に応じ、掃除や洗濯物干し・たたみ、食器拭き等の役割を担っていただいている。また、リビングで一緒にゲームに興じたり、個々にパズルや計算、貼り絵をされる時は材料の準備や助言等の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気の良い日時は外気浴や散歩に出かけている。コロナ前は月1回の外食、初詣やお花見等の外出機会を作って普段とは違う雰囲気を楽しめるよう企画していた。コロナが落ち着き、4月に近くの神社に行き、御花見を実施した。また、本人の希望でご家族の協力のもと農作業を楽しんでおられる利用者もある。	日常的には近隣の池の周りの散歩、玄関前のベンチでは、日向ぼっこ・ティータイム・母の日にはバーベキューを楽しみ、プランターのお花の水やり等で外気にあたって気分転換を図っている。春や秋には車で近隣のお寺までドライブ花見に出かけて楽しんでいる。家族と一緒に農作業に出かける人もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には施設が家族からお小遣いを預かり金銭管理を行っており、求めに応じて金銭出納帳を提示している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて職員が取次ぎ電話をかけていただいている。手紙のやり取りは希望があれば投函できるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには花を飾り、玄関扉はなるべく開け放して自然の風を取り込む等季節を感じる工夫をしている。リビングは天窓から光を採り入れ、床暖房完備、浴室エアコンを導入、トイレには季節によりヒーター、扇風機を設置し温度差解消に勤めている。また、施設内は清潔保持を心がけ快適に過ごせる工夫をしている。	共用のリビングは天井は吹き抜けで、天窓からの自然光が差し込み、朝・夕2回は換気が行われている。フロア入口のソファには新聞が2社・雑誌も配置され、カラオケを楽しんでいる。手作りお人形が癒しを与え、空気清浄機が2台設置されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファやリクライニングチェアを置き、個々に一番落ち着く場所、居心地のよい場所で自由に過ごしていただけるように務めている。席もほぼ決められているが、自由に席の移動もできるように支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談し、本人が自宅で使用していた家具等を持って来ていただいたり、住み慣れた部屋の雰囲気に近い家具等の配置等を工夫している。また和室と洋間があり、たたみで生活されていた方にはできるだけ和室を使用し頂いている。	居室は洋室のほか、和室が3室あり利用者の好みに応えられるようにしている。ベッド、防災カーテンが備えつけられ、利用者は家族と相談して筆筒、衣装ケース、テレビ、家族の写真、ラジオ等を持ち込んで居心地よく過ごせる工夫がみられた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々のできることを把握し、行動を見守り、日々の暮らしの中で日常生活動作の維持できるように働きかけ、安全に過ごしていただけるように工夫をしている。		